

農業技術 プリズム

2018年に日本で初めて侵入が確認されたツマジロクサヨトウは、主にトウモロコシを加害する害虫で若い茎葉を好み、夏季に多く発生し、収量減少などの被害を発生させます。

一方、地球温暖化により、飼料用トウモロコシの生育適温である10度を上回る日が早くなっており、播種（はしゅ）時期の前進化が可能となっています。

そこで、飼料用トウモロコシを通常より早めた3月と一般的な播種時期である4月、被害が多いと思われる8月に播種し、ツマジロクサヨトウの被害程度や収量を調査する

ことで、耕種的防除（薬剤防除なし）に適した播種時期を検討しました。
その結果、3月播種と4月播種は、8月播種に比べ、ツ

飼料用トウモロコシ害虫対策

3月まき被害少なく 乾物、TDN収量増

飼料用トウモロコシの播種時期別
ツマジロクサヨトウの被害と収量

播種月	被害スコア				乾物収量 (kg/10a)			TDN
	生育初期	生育中期	収穫時		茎葉	雌穂	合計	収量 (kg/10a)
	茎葉	茎葉	茎葉	雌穂				
3月	1	1.3	2	1.1	1181	1211	2392	1650
4月	1	1.4	2	1.3	1252	786	2038	1252
8月	1.5	2.3	2.6	2.9	832	862	1694	1146

※被害スコア：無1～甚5の5段階評価。数値が大きいほど被害が多い
※数値は2021～23年の3カ年平均

マジロクサヨトウの被害が少なくなりました。また、播種時期を早めた3月播種は、8月播種に比べて、乾物収量および可消化養分総量（TD

N）収量が多くなりました。
（県農林技術開発センター
畜産研究部門 大家畜研究室
主任研究員 緒方剛）